

■ CONTENTS ■

1. 細胞治療プロジェクト推進WG 下平滋隆委員長インタビュー
2. 細胞治療プロジェクト「さんまるAP」始動
3. INFORMATION



1. 細胞治療プロジェクト推進WG 下平滋隆委員長インタビュー

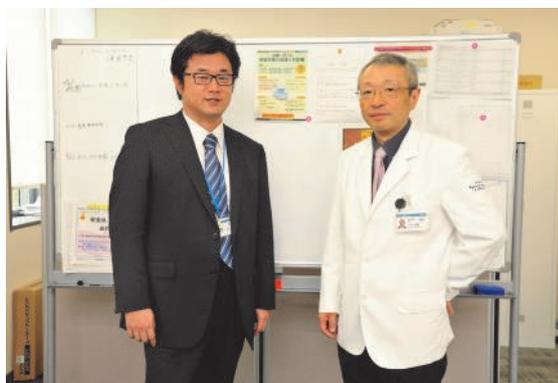
「細胞治療の金沢医科大学」のコンセプトを研究経営の根幹へ

金沢医科大学は、文部科学省平成28年度「私立大学研究ブランディング事業」(タイプA)の支援を受け、平成28年度から5か年の計画で研究プロジェクト「北陸における細胞治療イノベーションの戦略的展開」を推進しています。この折り返し点を迎えた今、プロジェクトの推進を担う責任者である細胞治療プロジェクト推進WGの下平滋隆委員長(再生医療学・教授)にインタビューを行いました。

◆「細胞治療ネットワーク」の実現に向けて

—細胞治療プロジェクトは平成28年度に事業がスタートし、5年間の事業計画の折り返し点を迎えました。外部評価も受審し、順調に推進されているようです。

下平 実施計画書に基づき、スケジュールと目標を共有したことで、研究担当者、マネジメント担当者、臨床研究・産学連携等の各支援センターがそれぞれ役割を果たし、さらに自己点検・評価の仕組みがよく機能したことで順調に進捗したと考えています。自己点検・評価は研究、社会展開、管理体制、ブランド構築の4項目の観点で行われ、それぞれマネジメントされるのがこのプロジェクトの推進における強みになっていると感じます。一部においては、主に外的要因のため計画の見直しをせざるを得ない状況にも直面したのですが、PDCAを適切に回すことで、初年度、2年度目とも定性・定量目標を概ね達成し、自己点検・評価WGではABCの3段階の評価で、4項目すべてにおいてAという評価をいただきました。特に、ADSC(脂肪組織由来幹細胞)バンクは予定よりも前倒しで定量目標を達成することができ、細胞治療プロジェクトからもたらされた、本学における大きな財産の1つになっています。



再生医療センターにて。今回、インタビューに応じていただいた下平滋隆教授・細胞治療プロジェクト推進WG委員長(右)と、ADSCバンクを活用する「さんまるAP」(次項を参照)を中心的に推進する石垣靖人教授・同副委員長(左)

—外部評価委員会では、金沢医科大学が中心となる「細胞治療ネットワーク」をどのように実現していくのかを問われました。

下平 細胞治療プロジェクトでは計画を策定した当初から、産学連携、人材育成、情報発信、データベース活用の4つのカテゴリでネットワークを構築することを目標としていました。まず、産学連携については上半期の2年間で、地に足のついた複数の産学連携プロジェクトを開始することができていますので、これらの企業に声をかけ、コンソーシアムの核とする考えです。また、信州大学が幹事機関となり、平成29年度から推進されているOPERA(科学技術振興機構：産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム)に参加している企業にも並行して参加していただくよう道筋を作っていきます。OPERA自体、医療機器の承認プロセスを加速するためのコンソーシアムを形成しているのですが、これに対し、我々のコンソーシアムは細胞治療に特化した、独立のコンソーシアムとして組織する方針です。これらの2つのコンソーシアムが共存することによって相乗効果が生まれますので、両方のコンソーシアムは互恵的な存在となります。

人材育成に関しては、金沢医科大学病院が細胞治療認定管理師制度協議会の指定研修施設としての認定を得られるよう、準備を進めています。このことは、本学はアカデミアが連携するための物理的な拠点となるだけでなく、「身近な細胞治療」の実現に必要な教育のための連携拠点となることを目指すという姿勢を打ち出すものです。

情報発信に関しては、プロジェクト専用ホームページで情報をアップデートするとともに、エポック的な活動については大学の公式Facebookも活用してタイムリーに情報発信をする体制です。また、定期的にニュースレターを発行し、ホームページに掲載することはもちろんのこと、関心をお持ちの方には直接メールでお届けしています。そのほか、「BioJapan」、「Matching HUB Kanazawa」などの展示会に出展しステークホルダーと直接的に意見交換をする機会を確保しています。また、これらの展示会をきっかけとして、共同研究体制の強化に成功した事例も出てきました。

データベース活用の面では、石垣靖人教授(金沢医科大学病院再生医療センター)が中心となり、新たに「さんまるAP」と命名した活動を開始しています(注:次項参照のこと)。今後、「さんまるAP」を新たなプラットフォームとして、プロジェクトの成果であるADSCバンクの活用を促進していきます。

—「身近な細胞治療」の実現には産学連携だけではなくアカデミアの連携が不可欠とお考えのようですね。

下平 保険診療として細胞治療が提供されるにはアカデミアがエビデンスを積み重ねることが必要であり、連携が不可欠です。特に本学としては北信(北陸と信州)のアカデミア連携は最重要です。そのため、前職の信州大学とは先進医療Bの治療技術「樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法」を共同で実施するよう準備を進めており、今年度中に申請する予定です。また、この信州大学との連携に加え、既に北信がんプロ(文部科学省:平成29年度大学教育再生戦略推進費多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン)で繋がりのある金沢大学、富山大学、福井大学との連携をさらに強め、新たに細胞治療コンソーシアムを構築できればと考えています。これに加え、グローバル化の中でMOU(交流協定)を締結した台湾高雄市立小港醫院、さらには高雄医学大学とその関連施設との包括的な国際共同研究を推進したいと考えます。

幹細胞を用いた再生医療の実現に向けては、安全性の確保および科学的妥当性の根拠が集積される必要があることから、本学では本年3月に特定認定再生医療等委員会が設置されています。この委員会はオープンアクセスの委員会として設置されており、特に北陸地域の医

療機関からの審査依頼に応えながら、幹細胞を用いた再生医療の実現に貢献していきます。

◆ 研究経営体制の強化

—事業計画書では「学長のリーダーシップに基づく研究経営の推進」を大目標として掲げられています。これを成功させるためには何が鍵となるのでしょうか。

下平 アカデミアにはマクロ的な視点に立った戦略的な企画を考え、創造力と課題解決力を発揮して実現する能力があります。この能力を活かして社会に貢献することはアカデミアに課せられた重要な役割です。また、この能力を担保するのは、専門知識や技能、さらに意欲を持ってアカデミアに集う多様な人材です。これらの人材により構成されるアカデミア、とりわけ大学では、組織の頂点から目標達成のために人材を動かすタイプのリーダーシップよりも、目標達成のために自ら動く人材を物心両面で支え、導くタイプのリーダーシップが有効であると考えられます。細胞治療プロジェクトでは学長がまさにこの後者のリーダーシップを発揮されています。それを受けて最前線で成功の鍵を握るのは、参加するメンバーのそれぞれの専門や技能が最大限に活かされるように舞台を整えるマネージャーであると考えます。その点、幸いにもこの10月1日付けで適任の人材をプロジェクトマネージャー(PM)として迎えることができました。細胞治療プロジェクトはここからが本番とも言え、今後のPMの活躍に大いに期待しています。

—「細胞治療の金沢医科大学」が一日も早く現実となることを期待しています。ありがとうございます。

(取材・構成:自己点検・評価WG委員 畔原宏明)

2. 細胞治療プロジェクト「さんまるAP」始動

研究用のADSCバンクを共同研究に使用する「さんまるAP」を開始しています。

細胞治療プロジェクトでは、30人の日本人(女性28人、男性2人)から文書による同意を得て脂肪組織を採取し研究用の脂肪組織由来幹細胞(ADSC)バンクを構築しました。このバンクにより、30という多数の検体を用いる研究が可能となります。例えばADSC用の細胞培養液や幹細胞培養キットの性能評価に最適なバンクと言えます。アカデミアおよび企業等からの共同研究・その他提携のご提案をお持ちの方は、金沢医科大学病院再生医療センター・石垣靖人(ishigaki@kanazawa-med.ac.jp)までお問い合わせください。

(金沢医科大学病院 再生医療センター 教授 石垣靖人)

3. INFORMATION

■ 高雄市立小港醫院とMOU(交流協定)を締結しました。

5月15日、金沢医科大学病院と高雄市立小港醫院(台湾・高雄医学大学関連施設)は、学術、医療および管理に関する協力および共同研究、医師等スタッフの交流、ならびに研修プログラムの推進等を目的とする交流協定(MOU)を締結しました。今後はこのMOUを足がかりとして、本学および高雄医学大学との連携に発展させていく予定です。

■ プロジェクトマネージャーの採用

細胞治療プロジェクトのプロジェクトマネージャーとして、10月1日付で加藤友久特定講師が着任しました。今後、細胞治療プロジェクトにおける研究課題に対するサポートをはじめ、研究コンソーシアムの組成、さらには国際共同研究への発展に向けても活動します。

■ BioJapan/再生医療JAPAN 2018に出展します。

10月10日~12日、パシフィコ横浜で開催されます。プロジェクトの活動状況について展示・発表いたします。

■ Nature Spotlight on Kanazawa にご注目ください。

10月11日に発行される Nature 第7726号(第562巻、2018年)の特集記事「Spotlight on Kanazawa」において、本学の細胞治療の取り組みが掲載されます。学都として知られる金沢において、本学が着実にその一翼を担っている様子をお伝えしておりますので、ご高覧いただければ幸いです。



文部科学省私立大学研究ブランディング事業
金沢医科大学 細胞治療プロジェクト
Newsletter 第3号(平成30年10月9日発行)
発行: 金沢医科大学 細胞治療プロジェクト推進WG
【事務局】(研究推進センター)
電話: 076-218-8324(直通)
E-mail: hrc-jimu@kanazawa-med.ac.jp